

総合医薬学研究科(総合医薬学専攻)の三つのポリシー(博士課程・博士後期課程)

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>総合医薬学研究科は医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな想像力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。</p>
---	--

<p>研究科の養成する人材像</p> <p>高度に専門化した医療現場において、多職種連携能力や相互理解力、包括的かつ学際的な対応能力を十分に発揮できる卓越した医師、薬剤師、看護職、専門医療人、医薬学研究者</p>
--

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】</p> <p>総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学分野の学術の理論、技術及び応用を教授研究し、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の行動に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、さらにこれら分野間の連携、融合により人と地の健康文化の進展に寄与することを目的としている。</p> <p>この目的に基づいて、博士課程・博士後期課程においては、医学、薬学及び看護学の分野横断的な専門知識と研究倫理を学び、また医学、薬学及び看護学における豊かな専門知識及び普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度の専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、総合医薬学研究科が示す学修成果を上げた者に博士の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>総合医薬学研究科では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。授業は講義、演習、実習等の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。また、博士論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目では、研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力、発信力を修得する。 ・研究科共通科目では、医療に携わる者として身に付けるべき知識、スキル・リテラシーを修得する。 ・プログラム専門科目では、先進的で高度な専門知識を修得する。 ・特別研究では、研究の計画立案力・遂行能力・問題解決能力を修得する。 <p>各授業科目の評価基準・方法は、シラバスに示す。博士論文は、学位論文評価基準に基づき、論文審査と口頭試問によって評価する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】</p> <p>総合医薬学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、医療系の研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人との健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>そのため入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>入学者の選抜は、プログラム毎に小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書等の成績等により、6年制学部卒業または大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達指標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>【学修成果】</p> <p>研究遂行に必要な医学、薬学及び看護学関連領域に係る幅広い豊かな学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>大学院共通科目、研究科共通科目等の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>各プログラムにおける基盤的能力を修得させるため講義・演習を実施する。</p> <p>また医学、薬学及び看護学領域を含む、博士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目、研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の講義・演習を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)・演習により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>医学、薬学及び看護学分野の6年制学部卒業または大学院修士課程修了相当の基礎知識及び語学力を身に付けている。</p> <p>医学、薬学及び看護学関連領域に係る幅広い豊かな知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>医学、薬学及び看護学関連領域の発展に寄与する自立して研究活動を行う教育研究者、高度かつ専門的な業務に従事する職業人として活躍するために必要な卓越した研究能力及びその基礎となる豊かな学識、技術、態度、並びに疾病の理解を含む医学的素養を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>プログラム専門科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医学、薬学及び看護学関連領域の高度専門職業人又は教育研究者として必要な高度の専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義・演習及び実習・演習を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。</p> <p>演習では、各分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づき討議を行う。</p> <p>融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験・実習指導や他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。</p> <p>特別研究では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p> <p>演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>高度の専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の単位を修得していること。 ・大学院共通科目「研究倫理」の単位を修得していること。(大学院博士課程のみ) 	<p>【学修内容】</p> <p>高度専門職業人又は教育研究者として活動する上で必要な研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p> <p>法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>6年制学部卒業または大学院修士課程修了相当の倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、医学、薬学及び看護学関連領域の諸課題を解決するための豊かな学識、並びに研究成果やその価値を説明、議論できる高度の能力を身に付け、自らが新たな知を創造し、その知らざる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>博士論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>創造性の高い研究を遂行するための豊かな学識及び研究価値を説明、議論できる高度の能力の修得のために特別研究を実施し、その成果をまとめて博士論文を作成するとともに、博士(学位)論文発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、博士論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>博士学位論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、博士学位論文評価基準に基づく博士論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>医学、薬学及び看護学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>